

慶應義塾大学文学部 3つの方針

【人文社会学科・東洋史学専攻・学士（史学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に対する内在的かつ客観的な視座、アジア・中東諸地域固有の言語をはじめとする外国語の運用能力、歴史学を中心とする人文社会科学の分野横断的な知見などを備え、それらをもとに多文化間の相互理解の促進に貢献できる人物の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

資質・能力目標(2)： アジア・中東諸地域固有の言語に関心を持ち、その運用能力の習得・向上を目指す姿勢を身につけている。

資質・能力目標(3)： 歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

資質・能力目標(4)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科東洋史学専攻（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1) アジア・中東諸地域に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、総合教育科目、専門教育科目において、歴史学に加え、学際的な内容を含む多様な科目群を設置する。

- (2)アジア・中東諸地域の歴史と現状に関して自ら課題を発見し、その解決を目指す能力を身につけるため、主に専門教育科目において、事前学習型授業、プレゼンテーション、グループワーク、対話・議論型授業等、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)アジア・中東諸地域に関する知的探究への動機づけと実践力を育成するため、必修語学科目および専門教育科目において、専門的な知識や技能を習得する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による指導評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

→ 主に専門教育科目において、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に関する基礎的な知識および専門的な学識を修得し、時代により異なるアジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重する力を養う。

資質・能力目標(2)：アジア・中東諸地域固有の言語に関心を持ち、その運用能力の習得・向上を目指す姿勢を身につけている。

→ 総合教育科目での学修成果をふまえ、必修語学科目のほか、専門教育科目において、上記の諸言語に対する関心と呼び起こし、その学修への意欲を高めるとともに、運用能力の向上を目指す。

資質・能力目標(3)：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

→ 他の史学系の専門教育科目の履修を求めることに加え、史学系以外の専門教育科目の履修を可能とすることにより、東洋史学以外の歴史学および歴史学以外の人文社会科学に関する知見や手法を修得する機会を設ける。

資質・能力目標(4)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

→ 専門教育科目での学修成果をふまえ、同じく専門教育科目の「東洋史研究会」において、学生は自らが設定した研究テーマを主体的に追究するとともに、教員や他の学生とのディスカッションなどを通じて当該研究テーマに関する客観的な視点を取り入れながら、新たな展望の提示に挑む力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する

能力を有する。

- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。